

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2019年 第45週（11月4日～11月10日）

今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用、ワクチン接種が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ 増加続く」

第45週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,780例であり、前週比7.8%減であった。

定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、伝染性紅斑、手足口病の順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.64、1.81、1.17、0.55、0.55である。

感染性胃腸炎は前週比1%増の717例で、南河内7.69、中河内4.40、大阪市北部3.93、北河内・大阪市南部共に3.78であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は10%減の357例で、北河内2.41、南河内2.31、堺市2.26、中河内・泉州共に2.20である。

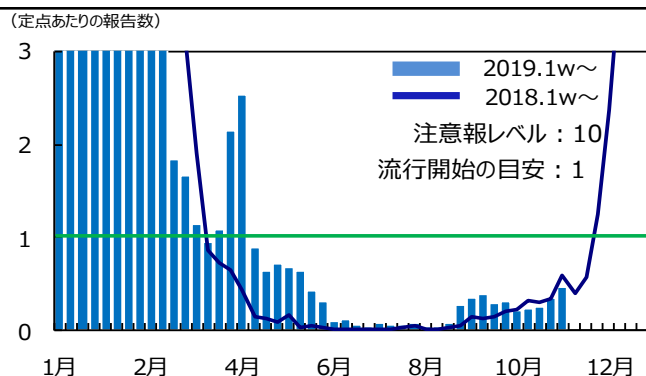
RSウイルス感染症は22%減の231例で、南河内2.31、北河内2.26、大阪市北部2.14であった。

伝染性紅斑は23%減の109例で、南河内1.50、泉州0.85、中河内0.80である。

手足口病は29%減の108例で、南河内1.25、北河内0.85、大阪市北部0.71であった。

インフルエンザは31%増の139例で、定点あたり報告数は0.46である。大阪市西部1.21、北河内0.81、南河内0.71、大阪市北部0.50、堺市0.48であった。

インフルエンザ



感染性胃腸炎

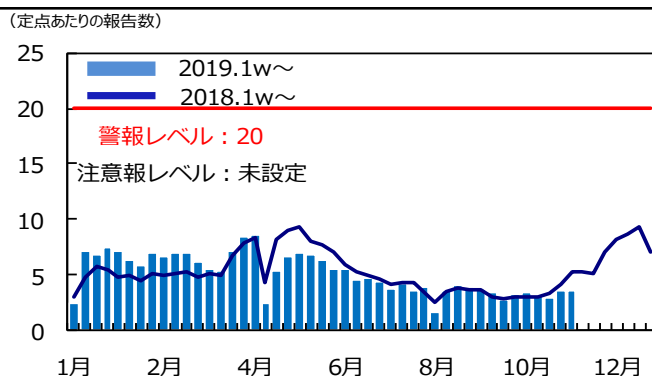


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2019年 第45週11月4日～11月10日）

第45週の順位	第44週の順位	感染症	2019年 第45週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2018年 第45週の 定点あたり 報告数	2019年第45週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	3.64	1%増	5.21	1歳_14%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.81	10%減	2.46	4歳_15%
3	3	RSウイルス感染症	1.17	22%減	0.54	1歳_39%
4	5	伝染性紅斑	0.55	23%減	0.28	4歳6歳_19%
5	4	手足口病	0.55	29%減	0.50	1歳_28%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.46	31%増	0.60	10-14歳_21%

第45週のコメント

～ 破傷風 ～ 大阪府では、年間10名未満の報告があります

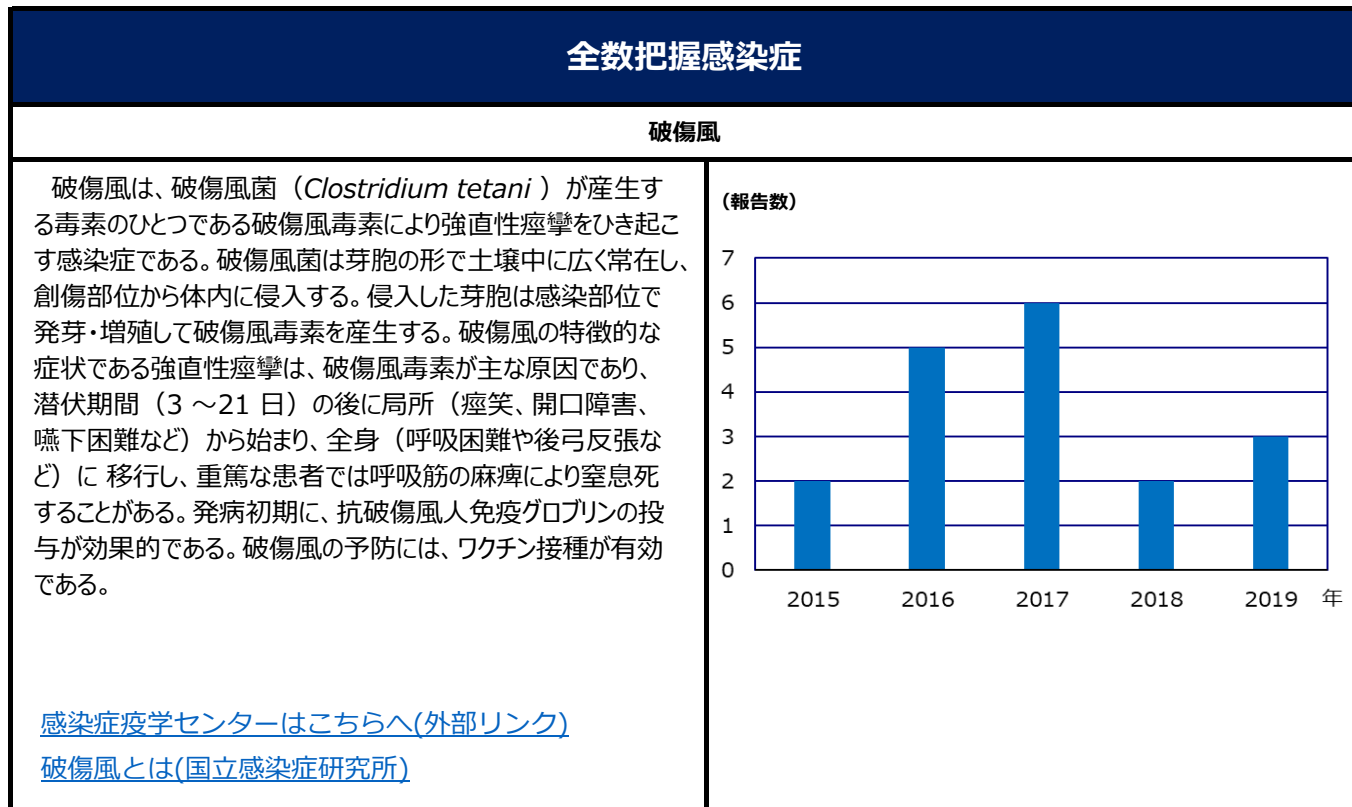


表2. 大阪府全数報告数（2019年 第45週11月4日～11月10日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】発生動向調査＞全数報告 をご覧ください。）

	疾患名 〔 〕内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告 数	豊 能	三 島	北 河 内	中 河 内	南 河 内	堺 市	泉 州	大 阪 市	府 内 累 積 報 告 数
3 類感染症	報告はありません										
4 類感染症	レジオネラ症〔肺炎型〕	6				1		2	1	2	112
5 類感染症	アメーバ赤痢	2								2	61
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2			1					1	173
	クロイツフェルト・ヤコブ病〔古典型〕	1								1	9
	侵襲性肺炎球菌感染症	3						1		2	223
	水痘（入院例）	1								1	20
	梅毒	4						2		2	921
	破傷風	1	1								3
	百日咳	4	1			1		2			758
風しん	1								1	128	
結核 (2019年9月分)	結核 新登録患者数：120名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 45名) (府内累積報告数 1,236名、内 肺・喀痰塗抹陽性 482名)										

(2019年11月12日 集計分)